

二〇一〇年六月二六日 二七(日) 聖日礼拝

ヨハネ二一章一五節〜一九節

『キリストのまなざしを受けて』

説教者 藤林いざや師 今井直喜師

メッセージメモ

21:15 食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子シモン、この人たち以上にわたしを愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの小羊を飼いなさい」と言われた。

21:16 二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか」ペトロが、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「わたしの羊の世話をしなさい」と言われた。

21:17 三度目にイエスは言われた。「ヨハネの子シモン、わたしを愛しているか」ペトロは、イエスが三度も、「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何もかもご存じです。わたしがあなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます。」イエスは言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

21:18 はつきり言っておく。あなたは、若いときは、自分で帯を締めて、行きたいところへ行っていた。しかし、年をとると、両手を伸ばして、他の人に帯を締められ、行きたくないところへ連れて行かれる。」

21:19 ペトロがどのような死に方で、神の栄光を現すようになるかを示そうとして、イエスはこう言われたのである。このように話してから、ペトロに、「わたしに従いなさい」と言われた。

△有名なペトロの否認とその後の()の物語。従来

は三度イエスを拒んだペトロが、イエスの「あなたは私を愛するか」という問いに三度答えることで、その立場が回復されると解釈されてきた。しかし今回はヨハネ二一章の一八節以降も踏まえて考えていきたい。

□ここでのイエスの言葉は、決して聞いていて心地よいものではない。「他の人に帯を締められて、行きたくないところへ連れて行かれる」とある。しかもそれはペトロの()に方を示唆するものであった。

○その後、聖書は語る「ペトロがどのような死に方で、神の()を現すようになるかを示そうとして」いるのだと。このような重い意味を含んで、「私の羊を飼いなさい」とイエスはペトロへの言葉を締めくくっている。

□これらのことを踏まえて、ペトロがイエスを否認した場面を考えてみたい。その時イエスがペトロに向けた()は、果たしてどのようなものだったのか。慈しみやすべてを包み込む愛、そのような美しい解釈で語りつくされてしまうものだろうか。

ルカによる福音書二二章五四節〜六一節

22:54 人々はイエスを捕らえ、引いて行き、大祭司の家に連れて入った。ペトロは遠く離れて従った。

22:55 人々が屋敷の中庭の中央に火をたいて、一緒に座っていたので、ペトロも中に混じって腰を下ろした。

22:56 するとある女中が、ペトロがたき火に照らされて座

っているのを目にして、じっと見つめ、「この人も一緒に
いました」と言った。

22:57 しかし、ペトロはそれを打ち消して、「わたしはあ
の人を知らない」と言った。

22:58 少したってから、ほかの人がペトロを見て、「お前
もあの連中の仲間だ」と言うと、ペトロは、「いや、そう
ではない」と言った。

22:59 一時間ほどたつと、また別の人が、「確かにこの人
も一緒だった。ガリラヤの者だから」と言い張った。

22:60 だが、ペトロは、「あなたの言うことは分からない」
と言った。まだこう言い終わらないうちに、突然鶏が鳴
いた。

22:61 主は振り向いてペトロを見つめられた。

- A 回復
- B 死
- C 栄光
- D まなざし

メッセージポイント

神の選びは、私たちの（ ）を通じて

変わらない。

主を愛するとは、主に（ ）姿勢を

第一に示すことである。